

© WPI / DERWENT

TI - Vehicle cooled seat with ~~drinking~~ cup holder - has vent pipe directed toward seat squab and incorporating cup holder in flow. NoAbstract.

PR - JP19940137821 19940530

PN - JP7323724 A 19951212 DW199607 B60H1/34 004pp

PA - (IKED ) IKEDA BUSSAN CO

IC - A47C7/74 ;B60H1/32 ;B60H1/34 ;B60N3/10

OPD- 1994-05-30

AN - 1996-065293 [07]

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平7-323724

(43) 公開日 平成7年(1995)12月12日

(51) Int.Cl. <sup>6</sup>	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
B 6 0 H 1/34		F		
A 4 7 C 7/74		C		
B 6 0 H 1/32		A		
B 6 0 N 3/10		A		

審査請求 未請求 請求項の数 2 F D (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願平6-137821

(22) 出願日 平成6年(1994)5月30日

(71) 出願人 000210089

池田物産株式会社

神奈川県綾瀬市小園771番地

(72) 発明者 天野 明

神奈川県綾瀬市小園771番地 池田物産株式会社内

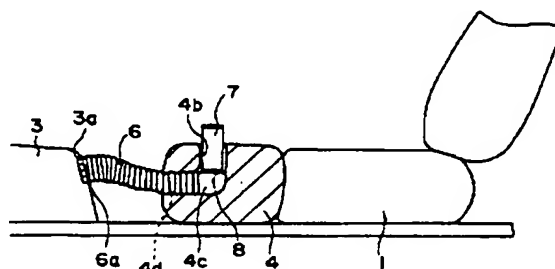
(74) 代理人 弁理士 青木 輝夫

(54) 【発明の名称】 車両用シート

(57) 【要約】

【目的】 リヤシートに保冷、保温機能を有するカップホルダを設けた車両用シートを提供する。

【構成】 リヤシート本体1の前面中央部に回転自在にクッション体4を配置し、このクッション体4の一方の面部にカップホルダ4bを設けると共に、少なくともクッション体4の他方の面部を前記リヤシート本体1とほぼ同質にし、前記カップホルダ4bが上向き状態にあるとき前面となるクッション体1の端部に、前記カップホルダ4bに連通する通風孔4cを設け、この通風孔4cと、センタコンソール3に開口された調和風の吹き出し口3aとを着脱自在な送風管6により接続した。



- 1 リヤシート本体
- 3 センタコンソール
- 3 a 吹き出し口
- 4 クッション体
- 4 b カップホルダ
- 4 c 通風孔
- 6 送風管

## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 リヤシート本体の前面中央部に回転自在にクッション体を配置し、このクッション体の一方の面部にカップホルダを設けると共に、少なくともクッション体の他方の面部を前記リヤシート本体とほぼ同質にし、前記カップホルダーが上向き状態にあるとき前面となるクッション体の端部に、前記カップホルダに連通する通風孔を設け、この通風孔と、センタコンソールに開口された調和風の吹き出し口とを着脱自在な送風管により接続したことを特徴とする車両用シート。

【請求項2】 送風管を伸縮自在な蛇腹管より形成して、カップホルダの通風孔内に格納自在としてなる請求項1記載の車両用シート。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【産業上の利用分野】 この発明はカップホルダを有する車両用シートに関する。

## 【0002】

【従来の技術】 従来乗用車のような車両には、フロントシートとリアシートが設けられていて、フロントシートは運転席と助手席が分割されたバケットシートが採用されており、リアシートはベンチシートが採用されていることが多い。通常ベンチシートは複数の人が着席できるように仕切りのないものが多いが、乗心地を改善するために、シートの中央部に折り畳み自在なセンタアームレストを設けたものを採用されている。

【0003】 例えば実願昭58-171047号公報には、図6に示すようにリアシートaのバックレストbに収納部cを設けて、この収納部cに引出し自在にアームレスト本体dを収納した「座席のセンタアームレスト」が記載されており、上記アームレスト本体dの一部には、清涼飲料などの入った缶やカップなどの容器を収容するカップホルダeが設けられている。

【0004】 またリアシートにアームレストのない車両では、図7に示すようにフロントシートfのバックレストg背面に、缶やカップを収容するカップホルダeを設けたものも公知である。

## 【0005】

【発明が解決しようとする課題】 しかしセンタアームレストやフロントシートのバックレスト背面にカップホルダeを設けたものでは、冷したり温めたりした飲み物を収容した缶やカップをカップホルダeに載置して長時間放置すると、飲み物が温まったり、冷めたりしておいしく飲めないなどの不具合があつた。

【0006】 またセンタアームレストにカップホルダeを設けたものでは、カップホルダeを使用する場合、その都度アームレスト本体dを出し入れしなければならないため操作が面倒であるとともに、フロントシートfのバックレストg背面にカップホルダeを設けたものでは、カップホルダeが常時露出しているため、見栄えが

悪かったり、乗降の際に邪魔になるなどの不具合があつた。

【0007】 この発明はかかる従来の不具合を改善するためになされたもので、カップホルダに収容した缶やカップ内の飲み物が冷えたり、温まったりすることのないようより保冷、保温機能を持たせた車両用シートを提供することを目的とするものである。

## 【0008】

【課題を解決するための手段】 この発明は上記目的を達成するために、リヤシート本体の前面中央部に回転自在にクッション体を配置し、このクッション体の一方の面部にカップホルダを設けると共に、少なくともクッション体の他方の面部を前記リヤシート本体とほぼ同質にし、前記カップホルダーが上向き状態にあるとき前面となるクッション体の端部に、前記カップホルダに連通する通風孔を設け、この通風孔と、センタコンソールに開口された調和風の吹き出し口とを着脱自在な送風管により接続したことを特徴とする。

【0009】 また送風管を伸縮自在な蛇腹管より形成して、カップホルダの通風孔内に格納自在としてもよい。

## 【0010】

【作用】 上記構成によりカップホルダの通風孔内に、送風管を介して冷風や温風を送り込むことにより、カップホルダに収容した容器内の飲み物を冷したり、温めたりできるため、常においしく飲み物を飲むことができる。

【0011】 またクッション体を反転すると、リヤシート本体の表面とほぼ同質となるため、着席しても異和感がないと共に、送風管を伸縮自在な蛇腹管とすることにより、カップホルダの内の通風孔内にコンパクトに格納することができる。

## 【0012】

【実施例】 この発明の一実施例を図1乃至図5に示す図面を参照して詳述する。

【0013】 図1は車両に設けられたリアシートの斜視図、図2は同断面図で、これら図において1はリアシート本体、2はバックレスト、3はリアシート本体1の前方に設けられたセンタコンソールで、センタコンソール3の後面には、図示しないエアコンデショナより送風された冷風や温風などが吹き出す吹き出し口3aが開口されている。

【0014】 またリヤシート本体1の前側中央部にはリアシート本体1の一部を兼ねたクッション体4が設けてあり、このクッション体4はリアシート本体1に着席した際異和感のないように上面と前面がリアシート本体1の前部と同質、同形状に形成されたほぼ箱形をなして、リアシート本体1の前側中央部に形成された切欠部1a内に収容されている。

【0015】 上記リアシート本体1の切欠部1a両側には、図3に示すように対向位置にピン状のヒンジ5が突設されていて、これらヒンジ5の先端は切欠部1a内に

3

収容されたクッション体4の両側面に設けられた凹孔4aに嵌入されており、上記ヒンジ5を中心にクッション体4が前後方向へ回動できるようになっている。またクッション体4内には、ヒンジ5を中心に前方へ回動した際上面となる面に、1個ないし複数個のカップホルダ4bが開口されている。

【0016】これらカップホルダ4bは清涼飲料などの収容された缶やカップなどの容器7が収容できる大きさの円筒状に形成されていて、中間部に網などの多孔板8が設けられていると共に、底部はクッション体4内に形成された通風孔4c内に連通されている。

【0017】上記通風孔4cはクッション体4を前方へ回動した際、前面となる面に開口するものであり、この開口部4d内に出し入れ自在に送風管6が収容されている。

【0018】上記送風管6は伸縮自在な蛇腹状をなしていて、一端側は開口部4dの奥側に固着されており、収縮することにより他端側が外側へ突出しないよう開口部4d内に収納できるようになっている。

【0019】そして他端側には接続口6aが設けられていて、送風管6を伸長した状態で接続口6aをセンタコンソール3の吹き出し口3aに接続することにより、吹き出し口3aより吹き出される冷風や温風をクッション体4内の通風孔4c内へ送り込めるようになっている。

【0020】次に作用を説明するとカップホルダ4bを使用しないときには、図1及び図2に示すようにカップホルダ4bが下側となるようにクッション体4を反転することにより、リヤシート本体1の表面と同質同形状の表面が上側となるため、着席しても何等異和感がなく、また見栄えもよいと共に、乗降の際に邪魔となることもない。

【0021】次にカップホルダ4bを使用する場合は、まずクッション体4をヒンジ5を中心に前方へ反転し、この状態で通風孔4c内より送風管6の一端側を引き出して、図5に示すように接続口6aをセンタコンソール3後面の吹き出し口3aに接続する。

【0022】これによって吹き出し口3aより吹き出される冷風や温風が、送風管6を経てクッション体4内の通風孔4c内へ送り込まれるため、この状態でカップホルダ4bに容器7を収容することにより、容器7内の飲み物を冷やしたり、温めることができるようになる。

【0023】

4

【発明の効果】この発明は以上詳述したように、リヤシート本体の前面中央部に回転自在にクッション体を配置し、このクッション体の一方の面部にカップホルダを設けると共に、少なくともクッション体の他方の面部を前記リヤシート本体とほぼ同質にし、前記カップホルダが上向き状態にあるとき前面となるクッション体の端部に、前記カップホルダに連通する通風孔を設け、この通風孔と、センタコンソールに開口された調和風の吹き出し口とを着脱自在な送風管により接続したことから、カップホルダに飲み物を入れた容器を収容しておくことにより、冷風により飲み物が冷やされたり、温風により温められるため、常においしく飲み物を飲むことができる。

【0024】またカップホルダを使用しないときには、クッション体を反転することにより、クッション体の表面がリヤシート本体とほぼ同質となるため、リヤシート本体に着席しても異和感がなく、かつ乗降の際に邪魔になることがないと共に、見栄えも大変よい。

【0025】さらに送風管を伸縮自在な蛇腹管で形成すれば、クッション体内にコンパクトに格納できるため、カップホルダを使用しないとき送風管が邪魔になることもない。

【図面の簡単な説明】

【図1】この発明の一実施例になる車両用シートの斜視図である。

【図2】図3のA-A線に沿う断面図である。

【図3】この発明の一実施例になる車両用シートのリヤシート本体を示す斜視図である。

【図4】この発明の一実施例になる車両用シートに設けられたクッション体の斜視図である。

【図5】この発明の一実施例になる車両用シートに設けられたカップホルダの使用状態を示す説明図である。

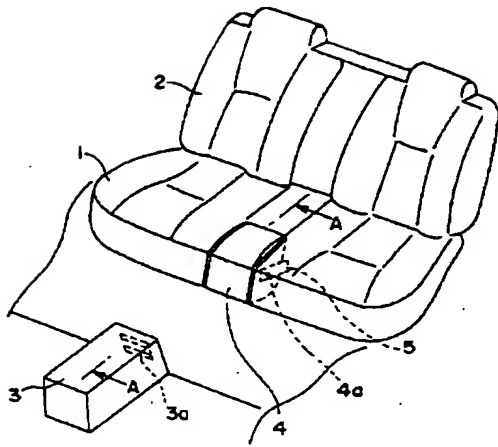
【図6】従来の車両用シートを示す斜視図である。

【図7】従来の車両用シートを示す斜視図である。

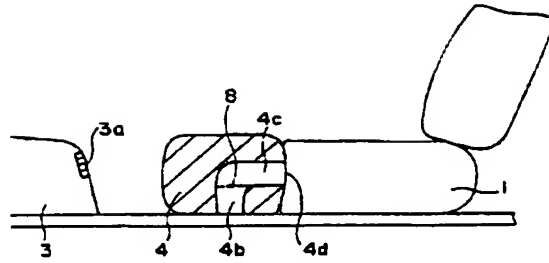
【符号の説明】

- 1 リヤシート本体
- 3 センタコンソール
- 3a 吹き出し口
- 4 クッション体
- 4b カップホルダ
- 4c 通風孔
- 6 送風管

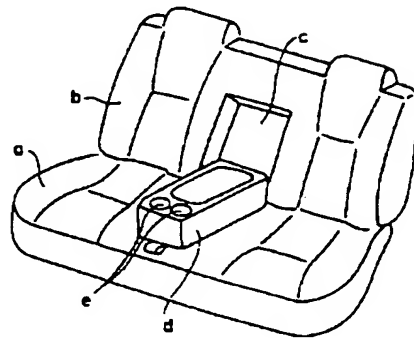
【図1】



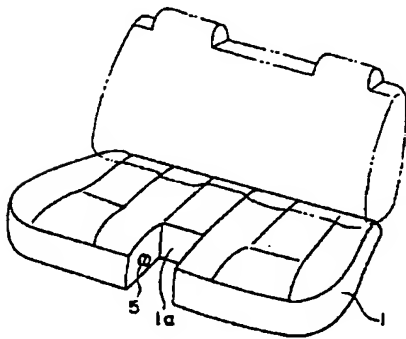
【図2】



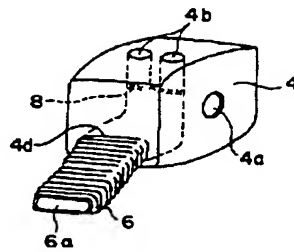
【図6】



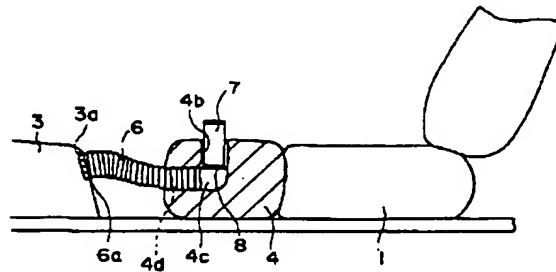
【図3】



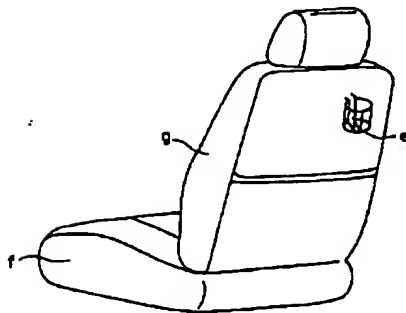
【図4】



【図5】



【図7】



- 1 リヤシート本体
- 3 センタコンソール
- 3a 吹き出し口
- 4 クッション体
- 4b カップホルダ
- 4c 通風孔
- 6 送風管